

「アートと障がい者支援についてのトークイベント」 事例報告

国文祭・芸文祭みやぎ2020 プレイベント

参加費 無料

グローバルイベント パネルディスカッション

～共に生きる 共に感じる 文化でつなぐ共生社会～

「アートと障がい者支援についてのトークイベント」

アート活動から見てくるものやもたらす影響など、事例報告を交えながらのパネルディスカッションです。



“こころ”のふれあうフェスタ2019

日時：2019年12月1日(日) 13:00～15:00 (受付 12:30)

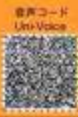
会場：宮崎県立美術館 1F アトリエホール 宮崎市船渠3丁目210番地

コーディネーター：外前田 孝
(宮崎日日新聞社 総合メディア局次長兼データベース部長)

パネリスト：坂元 金一 (造形作家)
小林 順一 (NPO法人 宮崎もやいの会)
吉野 由夏 (アートステーションどんこやメンバー)

対象 障がい者芸術文化活動に興味のある方や関係者の方
定員 80名 (事前申込・定員に達していない時当日も参加申込可能)

これは音声コードUni-Voiceです。スマホアプリを利用して音声を音声で聞くことができます。



主催：宮崎県・宮崎県障がい者芸術文化支援センター 後援：アートステーションどんこや

「こころのふれあうフェスタ2019」(主催：宮崎県障がい者芸術文化支援センター)の一環として、12月1日にパネルディスカッション「アートと障がい者支援についてのトークイベント」が宮崎県立美術館1Fアトリエホールで行われました。

このトークイベントにパネリストとしてNPO法人宮崎もやいの会代表・小林が登壇して、精神障がい者の日中支援として写真ワークショップを2008年から地域活動支援センターや精神科病院のデイケアのプログラムとして実施してきた事例報告をしました。

その内容をパワーポイントでプレゼンをしたので、その内容をPDFで掲載しました。

精神障がい者の日中支援としての 写真活動事例報告！

NPO法人 宮崎もやいの会
地域活動支援センター かふえらで
代表 小林 順一(写真家)

写真活動を始めるきっかけ

- ・息子が精神疾患に罹患したこと。
 - ・精神障がい者と活動して感じたこと。
 - ・家族や援助・支援者が、再発・再入院を避けるために無理をさせないことに過剰に注意するために、依存的な生活を強いられ、主体性や積極性を失うことで、社会生活機能の低下をきたす。
 - ・社会に偏見があることで、就労や社会参加ができないことで、社会から必要とされない存在である。
- 「自信や誇り」「自己肯定感」が持てない。**

写真活動のミッション

- ・依存的 & 消極的な面を改善する。
- ・積極的な気持ちや意欲を持つ。
- ・主体性を発揮することを目指す。
- ・自分の感性や個性を発見する。
- ・地域の素晴らしさを再発見する。
- ・地域に出ていき人と触れ合う。

「自身と誇り」が感じられる内容の写真活動を実施する。

写真の特性による効果

- ・写真は「選択する芸術」

自分で被写体を選び、距離を選び、位置を選ぶことは、主体を発揮する。

- ・人の視線が気になる！

撮るという行為は、「見る」ことに集中することで、「見られる」という意識から「見る」に転換する。

- ・人に話しかけられることが不安！

街でカメラを持っていると優しく話しかけられる。

デジタルカメラの利点

デジタルカメラは、支援するツールとして、とても便利で、経済的に大助かり。

- デジタルカメラは、操作が簡単
- シャッターを押せば写真は撮れる。
- 撮った写真を即モニターで見れる。

初心者でも、気軽に参加できて、楽しめる写真活動。

写真活動のプログラム

①撮影ワーク(1時間)

②鑑賞ミーティング(1時間)

<撮影ワーク>

- ・参加者に撮影場所を決めてもらう
- ・自分が興味を持ったものを撮る。
- ・自分で、いいね！と思ったものを撮る。
- ・上手いとか下手という事を気にしない。
- ・どのような撮り方でも構わない。

<鑑賞ミーティング>

- ・撮影後に講師が参加者の撮った写真をモニターを見ながら、その時の気持ちを聞き出す。
- ・参加者の個性や嗜好性を知り、お互い理解する。
- ・撮影した中から1点選んでコメントを付けてブログに掲載。

写真活動を通じて、選択する、決めることによって、**主体の回復**につながる。

<撮影ワーク>



<鑑賞ミーティング>





初めての参加で、舗装の道路に可憐に花が咲いているのに感動したから選びました



今日は退院して初めての写真ワークショップに参加しました。日ごろ感じないものをカメラを通して感じる事が出来ました。



道沿いの草むらに小さな花が一生懸命咲いてる姿に感動したので



初めて写真活動に参加してシャッターに書かれたアートに心を奪われました。街の雰囲気とよくあっていると感じました



写真活動に始めて参加させていただきましたが、普段なにげなく歩いている町の中で意外と気がつかない風景がたくさん存在するのだなと感じました。



馬と会話が出来たような気がして撮りました。撮った写真を見て納得しました。



公園に子供の銅像があるのを見て、将来子供たちがどんな大人になっていのか考えて撮りました。



撮影に行くときに写した写真で、颯爽と歩いている姿が気に入ったので選びました



初めての撮影でしたが経験があったので何でもかんでも楽しく撮影しました



埴輪の表情がよかったのでアップで撮りました



撮った写真をモニターで見たときに、私の文化公園は、これだなと感じて選びました



誰も座っていないベンチを撮り、モニターで見たときにいい雰囲気だったので選びました



こころがクリアになる感じと先の明るさを感じる風景だったので選びました



















**精神障害者の特性である、依存性・
消極的な生活によって**

**「自信や誇り」
「自己肯定感」
「自己決定」**

**が持てない状態に対して、写真活動
を通じてプラスに作用できたのではない
かと感じています。**

ご清聴ありがとうございました。

